

令和8年度

千松小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 児童が自分の思いや考えをもち、対話することを通して考えを広げたり深めたりする授業の実践
- 学びを自分事として、認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

校長

山崎 真弘

学力向上推進員

野本 佳代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や授業研究会、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に真面目に取り組む児童が多く、基礎・基本的な知識・技能は、身につけてきている。 ●語彙力の不足により、自分の考えを言葉で表現することや基礎・基本的な知識を活用することに課題がある。	・既習学年や当該学年の基礎・基本的な知識や技能を確実に習得することができる。 ・語彙を増やし、相手に伝わるように言葉を選ぶことができる。 ・身につけた知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・正確に読み取らせるために、教科書にアンダーラインや囲みを入れた確実に伝えさせる。 ・言葉のもつ意味やニュアンスを捉えさせ、思考を深める語彙を指導する。 ・ドリルやプリント、AIDリルなどタブレット端末を活用して、既習事項を繰り返し復習できるようにする。 ・光る子十カ条を徹底し、家庭との連携に努めることで、授業や家庭学習にじっくり取り組む習慣をつけられるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の意見を持ち、友達の意見を聞く姿勢が身につけてきている。 ●根拠を明確にして自分の考えを伝えたり、聞き合ったりする活動を通して、さらに考えを広めたり深めたりすることに課題がある。	・学習で課題を見つけ、話し合い活動を通して解決する方法を考えることができる。 ・自分の考えを明確にもって相手に伝えることができる。 ・相手の話を自分の考えと比較したり、関連付けたり、分類したりしながら聞き、考えを広げたり深めたりすることができる。	・ホワイトボードやメモ・付箋、タブレット等を効果的に活用して自分の思いや考えを書き意見交換をする。 ・相手意識や目的意識をもって、ペアやグループで話し合う機会を効果的に設定する。 ・児童の話し合いの内容に応じ、対話の視点を明確にし、更に考えが深まる発問を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組む。与えられた課題には、真面目に取り組む。 ●自分で課題を見つけて、見通しをもって学習に取り組もうとすることに課題がある。自信をもって取り組むことが苦手な児童もいる。	・各教科の学習で自分なりの課題をもち、主体的に取り組むことができる。 ・学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。とともに、自分に自信をもつことができる。	・単元のゴールを明確にし、学習課題をつかませたり、見通しをもたせたりすることで、主体的に取り組むことができるようにする。 ・スモールステップを心がけ、児童のがんばりや成果を褒め、達成感や次時への意欲がもてるようにする。 ・振り返りで「学んだことをどう生かすか」を意識させることで、次時への意欲や課題意識をもてるようにする。			